

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：33705

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02801

研究課題名（和文）大学における発達障害学生支援と学生支援コーディネーターの役割に関する基礎研究

研究課題名（英文）Basic Research on Support for Students with Developmental Disabilities at Universities and the Role of Student Support Coordinators

研究代表者

池田 敦子（Ikeda, Atsuko）

東海学院大学・人間関係学部・教授（移行）

研究者番号：00750308

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：発達障害学生は、自身の障害特性や発達困難に気づきにくくそのことが大学における発達障害学生の学業、対人関係、就労・社会移行に及ぼす影響は大きい。それゆえに、大学における発達障害学生支援の中軸は、発達障害学生が有する各種の困難に対する適正な合理的配慮の実施と円滑な社会移行である。それらの支援を実施するためには、学生支援コーディネーターによる発達障害学生への伴走的支援が不可欠であることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

発達障害学生は、自身の障害特性や発達困難に気づきにくくそのことが大学における発達障害学生の学業、対人関係、就労・社会移行に及ぼす影響は大きい。それゆえに、大学における発達障害学生支援の中軸は、発達障害学生が有する各種の困難に対する適正な合理的配慮の実施と円滑な社会移行である。それらの支援を実施するためには、学生支援コーディネーターによる発達障害学生への伴走的支援が不可欠であることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：Students with developmental disabilities are less likely to be aware of their own disability characteristics and developmental difficulties, and this has a significant impact on their academic work, interpersonal relationships, employment, and social transition at universities. Therefore, the core of support for students with developmental disabilities at universities is the implementation of appropriate reasonable accommodations for the various difficulties of students with developmental disabilities and smooth social transition. In order to provide such support, it has become clear that it is essential for student support coordinators to provide companionship to students with developmental disabilities.

研究分野：特別支援教育

キーワード：大学 発達障害学生 学生支援コーディネーター 支援体制構築

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

大学における障害学生支援は、近年の障害学生の増加と2016年4月施行の「障害者差別解消法」が相まって、障害学生の実態把握や支援体制が徐々に進められている。独立行政法人日本学生支援機構「平成28年度(2016年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書」によれば、障害学生のうち「発達障害(診断書有)学生」は2011年1,453人から4,150人と5年間で約2.9倍に増加し、発達障害のほか心身に多様な発達困難を抱える学生への取り組みの拡充整備が強く求められている。さらに同実態調査結果報告書では専任の学生支援コーディネーター配置は72校(6.1%)にすぎず、障害学生支援室の設置、専任教員・スタッフの配置、とりわけ障害学生支援の中心となる学生支援コーディネーターの配置は緊急な課題となっている(池田ほか:2015a,2015b、高橋ほか:2017a,2017b)。

2. 研究の目的

申請研究課題「大学における発達障害学生支援と学生支援コーディネーターの役割に関する調査研究」は、近年増加している発達障害等の心身に多様な発達困難を抱える学生支援の拡充整備の基礎的研究として、国公私立大学(30大学程度)に対する「大学の発達障害学生支援における学生支援コーディネーターの役割に関する訪問面接法調査」を実施し、大学における発達障害学生支援の困難・ニーズと学生支援コーディネーターの役割について検討し、発達障害学生支援の中軸となる学生支援コーディネーターの役割を解明しながら発達障害学生支援のシステム開発を目的としている。

3. 研究の方法

(1)近年の学生支援・発達障害学生支援に関わる研究のレビューを行い、発達障害等の発達困難を有する学生支援に関する動向や支援体制の課題を明らかにする。

(2)全国の国公私立大学を対象に発達障害学生支援の中軸となる学生支援コーディネーターの配置・役割・課題等についての訪問調査研究を行なう。

調査対象:全国の国公私立大学の障害学生支援室の学生支援コーディネーター又は中心となる支援担当者(障害学生支援室がない場合は学生支援部門)。調査大学は国公立大学13大学、私立大学11大学、計24大学。調査方法:半構造化面接法(50分~60分程度)。調査期間:2018年10月~2022年12月(コロナ禍のために長期間となった)。主な回答者は専任教員13名、学生課職員6名、心理士等専門職3名、その他2名。聞き取りの内容は記述をカテゴリーごとに分類し、KJ法により調査を分析した。調査協力者については、事前に文書にて「調査目的、調査結果の利用・発表方法、秘密保持と目的外使用禁止」を説明し承認を得た。本研究は事前に東海学院大学研究倫理審査委員会の審査を受けている。また本研究において開示すべき利益相反はない。

4. 研究成果

(1) 障害学生支援室・障害学生支援部門の設置

障害学生支援室・障害学生支援部門の設置は国公立大学11大学、私立大学8大学であった。国立大学は「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告(第一次まとめ)」(2012)以後、文部科学省の予算化により障害学生支援室の設置・学生支援コーディネーターや専任担当教員などの人的配置の支援体制整備が進んだ。私立大学においては従来の修学困難学生支援の取り組み

みが障害学生支援室に移行するほか、障害学生支援室が未設置の大学では心理相談室・学生相談室や学生課・学生支援課等が主な相談支援の場であった。

障害学生支援の主な支援担当者は「学生支援コーディネーター」7大学、「学生支援室担当教員」7大学、「学生支援室専門職員」3大学、「学生課職員」4大学、「学生心理相談室」2大学、「学生支援部門看護師」1大学であった。

学生支援コーディネーターの配置は国公立大学5大学、私立大学2大学、このうち専任教員の任期(2年～5年)がある大学は5大学であった。学生支援コーディネーター配置の有無にかかわらず、全ての大学の支援者は「学生・保護者・教員からの相談、支援ニーズの整理、関係部署や教職員との連携、情報共有、ケース会議開催、配慮内容の相談、合理的配慮の申し入れ」等の業務を担っていた。診断がある障害学生の合理的配慮を中心とした修学支援、単位不足・留年学生等の修学困難学生の支援を行い、学生支援の中心であるコーディネート機能を果たしていたことが特徴的であった。

(2) 発達障害学生支援の現状

発達障害学生支援は、調査した国公立私立大学24大学のうち22大学において何らかの形で実施されており、2大学が未実施であった。発達障害学生支援が円滑に行われている背景・要因として、「支援部署が明確であり支援会議等が設置されている」17大学、「学科・講座・コース等の教員との連携や日常的な情報交換がとれている」12大学、「学生の成績・授業出欠等を把握し、担任や関係部署の教職員が情報を共有している」8大学、「学生のニーズに沿った支援ができています」3大学、「本人が支援を希望する」3大学、「いつでも相談ができる」1大学であった。

発達障害学生支援において学生支援コーディネーターや支援部門が困難に感じていることは、「当該学生が困っている自覚がなく、連絡が取れなくなり、支援に繋がらない」12大学、「大学としての支援システムが構築されていない(明確な支援基準がない、支援担当者が少なく対応困難等)」11大学、「発達障害に対する教員の理解不足」5大学、「学生支援部門の知名度が低い」3大学、「進路の対応(退学・就職・移行支援)が困難」2大学であった。

(3) 発達障害学生への合理的配慮の提供

発達障害学生への合理的配慮の実施が行われているのは22大学、実績がない大学は2大学であり、ほとんどの大学で発達障害学生に対する合理的配慮が実施されていた。合理的配慮提供の根拠となる資料は「医師の診断書、心理士の意見書、発達支援センターからの文書など」であり、障害学生支援委員会、学科会、関係する教職員での支援会議で確認し、配慮に関する文書が各教員に手渡されるという形式で支援が開始される手順である。

発達障害学生への合理的配慮が円滑に実施できている背景・要因として、「情報共有がある・ケース会ができています」8大学、「教員が支援に理解がある」7大学、「支援がシステム化されている」6大学、「保護者の理解がある」1大学、「少人数なので調整がしやすい」1大学であった。

合理的配慮を行う上で困難に感じていることは、「支援システムはあるが機能していない」12大学、「支援委員会に専門家がいなかったために体制整備やルールづくりが進まない」4大学、「教員全体に支援に対する理解が醸成していない」2大学、「障害学生数が多くて対応が困難」1大学、「本人が障害を知らせたくないため支援に繋がらない」1大学、「経済的負担がある」1大学等であった。その他、学生支援コーディネーター・支援部門や支援システムがあ

っても支援者に専門性がないために支援要請と支援計画が合っていない、支援会議に当該学生が参加しないために支援内容の確認ができない、配慮文書を教員が受け取っても支援学生の顔が分からない等の困難も挙げられた。

(4) 発達障害学生への就労・移行支援

発達障害学生の就労・移行支援の部署は、支援部門と就職課、学生支援コーディネーター、支援部門のみ、事例がない、発達障害学生の就労・移行支援はしていないという順であった。「就職がなかなか決まらない。筆記試験には合格するが、面接で何度も落ちた学生が就職課に相談に来て、ようやく支援が開始される」という事例は多い。

大学において何とか学業は続けては来たが、卒業後の将来を見通した計画がもてない、卒業研究と就職活動の両立ができない、就職面接で自分を語ることが困難、周囲の学生の就職内定に対する焦りや不安・ストレスにより不登校・引きこもりが生じ、留年・退学という道をたどる学生が多い等、就労・移行支援における発達障害学生の課題・困難に対する支援はほとんどできていないのが実態であった。

(5) 大学における発達障害学生支援の課題

発達障害学生支援においては大学入学前の配慮・支援の引継ぎ、発達障害当事者の発達上の課題・困難についての自己理解とその促進、生活上の困難や二次的障害に対する発達支援、就労・社会移行等と連携した支援が課題となった。

さて、入試形態の多様化や少子化・学生数減少の中で、発達障害以外にも軽度知的障害や「知的障害ボーダーライン・グレーゾーン(境界線知能)」の学生の明らかになっている(全国の私立大学に約40数名の根拠資料のある知的障害学生が在籍している。全国障害学生支援センター:2020)。知的障害学生の大学生活や支援の実態についての研究はほぼ皆無であるが、今後のインクルーシブな大学教育保障の視点からも実態の解明が求められている(池田ほか:2021、高橋ほか:2018・2019)。

【文献】

独立行政法人日本学生支援機構(2017)平成28年度(2016年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書。

独立行政法人日本学生支援機構(2022)令和3年度(2021年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書。

池田敦子・田部絢子・高橋智(2015a)大学の発達障害学生支援における学生支援コーディネーターの役割、『日本教育学会第74回大会発表要旨集録』、pp.218-219、お茶の水女子大学。

池田敦子・田部絢子・高橋智(2015b)大学の障害学生支援における学生支援コーディネーターの役割—発達障害学生の困難・ニーズに対する支援の実際から—、『日本特別ニーズ教育学会第21回研究大会発表要旨集』、pp.136-137、京都教育大学。

池田敦子・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・神長涼・石井智也・高橋智(2017)大学の教職課程における発達障害学生支援と合理的配慮、『東京学芸大学紀要総合教育科学系』第68集、pp.125-133。

池田敦子・田部絢子・高橋智(2021)米国の大学における知的障害学生の教育機会と教育保障の動向、『東海学院大学紀要』第15号、pp.71-78。

池田敦子・高橋智(2022)自傷・摂食障害等の生きづらさを抱える若者の生い立ちと発達の自立

の過程、『東海学院大学研究年報』第7号、pp. 57-64。

石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・池田敦子・石井智也・柴田真緒・能田昂・田中裕己・高橋智(2021) スウェーデンにおける障害者の学び直しと生涯学習・発達の保障—「ヴェスタンヴィーク聴覚障害国民大学 (Västanviks folkhögskola)」の訪問調査から—、『長崎大学教育学部教育実践研究紀要』第20号、pp.1-10。

文部科学省(2017)『障害のある学生の修学支援に関する検討会(平成28年度第二次まとめ)』高橋智・池田敦子(2017a)顕在化する多様な困難—大学における発達障害学生支援の現状と課題(上)—、『内外教育』第6627号、pp.8-10、時事通信社。

高橋智・池田敦子(2017b)多くの学生が広範囲の不適応—大学における発達障害学生支援の現状と課題(下)—、『内外教育』第6628号、pp.6-9、時事通信社。

高橋智・田部絢子・石川衣紀(2018)アイスランド障害者の生涯・大学教育—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向—、『内外教育』第6663号、pp.10-13、時事通信社。

高橋智・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋(2019)北欧における障害者の生涯学習と発達支援—スウェーデン・デンマーク・アイスランドへの訪問調査を通して—、『東京学芸大学紀要総合教育科学系』第70集、pp.217-234。

高橋智・池田敦子・田部絢子(2020)当事者のニーズから考える知的障害教育の機能・役割、『障害者問題研究』第48巻1号、pp.34-39。

全国障害学生支援センター(2020)『障害を持つ人々の現状』No.107。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 池田敦子・高橋智	4. 巻 7
2. 論文標題 自傷・摂食障害等の生きづらさを抱える若者の生い立ちと発達の自立の過程 当事者との振り返りの共同作業を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海学院大学研究年報	6. 最初と最後の頁 pp.71-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 池田敦子・田部 絢子・石井 智也・内藤 千尋・能田 昂・柴田真緒・高橋 智	4. 巻 7
2. 論文標題 スウェーデンにおける病気の子どもの特別教育システムと支援の実際	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海学院大学研究年報	6. 最初と最後の頁 pp.79-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田部 絢子・石井 智也・内藤 千尋・石川 衣紀・能田 昂・池田 敦子・高橋 智	4. 巻 14
2. 論文標題 フィンランドにおける国立特別教育研究機関と国立特別学校の役割 国立学習支援研究センター「ヴァルテリ（Valteri）」と併設国立特別学校「ルスキス（Ruskis）」の訪問調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金沢大学人間社会研究域学校教育系紀要』	6. 最初と最後の頁 pp.61-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 能田昂・田部絢子・石井智也・石川衣紀・内藤千尋・池田敦子・柴田真緒・高橋智	4. 巻 83
2. 論文標題 デンマークにおける病気の子どもの特別教育システムの動向 歴史的変遷と現行の特別教育制度を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 尚綱学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 .17-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・石井智也・石川衣紀・能田昂・池田敦子・高橋智	4. 巻 32
2. 論文標題 スウェーデンにおける精神障害者の地域ケア 精神障害当事者支援組織「フォンテンヒュス・フェンダール支部」の訪問調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山梨大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川 衣紀・田部 絢子・石井 智也・内藤 千尋・能田 昂・柴田 真緒・池田 敦子・高橋 智	4. 巻 8
2. 論文標題 デンマークにおける肢体不自由 (運動障害) 教育システムの動向 - インクルーシブ教育における肢体不自由 (運動障害) 特別学校・学級の意義と役割 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 pp.59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井智也・田部絢子・能田昂・石川衣紀・内藤千尋・池田敦子・柴田真緒・高橋智	4. 巻 83
2. 論文標題 デンマークにおける病気の子どもの特別教育の実際	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 尚絅学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・田部絢子・石井智也・内藤千尋・池田敦子・能田昂・柴田真緒・高橋智	4. 巻 21
2. 論文標題 特別支援教育におけるICT利活用に関する動向と課題 視覚障害・聴覚障害教育を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 125-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・池田敦子・能田昂・柴田真緒・高橋智	4. 巻 21
2. 論文標題 特別支援教育におけるICT利活用に関する動向と課題 知的障害・発達障害・肢体不自由教育を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 135-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井智也・石川衣紀・田部絢子・池田敦子・高橋智	4. 巻 15
2. 論文標題 ウェーデンにおけるインクルーシブ教育と肢体不自由 (移動障害) 教育の動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 79-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田中謙・西牧謙吾・田部 絢子・石井 智也・池田 敦子内藤 千尋・能田 昂・石川 衣紀・柴田真緒	4. 巻 1
2. 論文標題 特別支援学校の自立活動に関する動向と課題 - 「知的障害」領域を中心に -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代教育改革の理念と実践に関する研究 - 日本大学文理学部人文科学研究所共同研究第四次報告集	6. 最初と最後の頁 pp.31-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田中謙・西牧謙吾・田部 絢子・石井 智也・池田 敦子内藤 千尋・能田 昂・石川 衣紀・柴田真緒	4. 巻 1
2. 論文標題 特別支援学校の自立活動に関する動向と課題 - 「肢体不自由・病弱」領域を中心に -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代教育改革の理念と実践に関する研究 - 日本大学文理学部人文科学研究所共同研究第四次報告集 -	6. 最初と最後の頁 pp.25-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部 絢子・石井 智也・石川 衣紀・内藤 千尋・能田 昂・池田 敦子・高橋 智	4. 巻 82
2. 論文標題 スウェーデンにおけるインクルーシブ教育と知的障害特別高校の意義・役割：ストックホルムの聖エリク特別高校の訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 尚綱学院大学紀要 = Research reports of Shokei Gakuin College	6. 最初と最後の頁 pp.97-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 能田 昂・田部 絢子・石井 智也・内藤 千尋・石川 衣紀・池田 敦子・高橋 智	4. 巻 82
2. 論文標題 スウェーデンの知的障害特別学校と障害の重い子どもの教育：ストックホルム市のモッカシネン特別基礎学校の訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 尚綱学院大学紀要 = Research reports of Shokei Gakuin College	6. 最初と最後の頁 pp.83-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 智・石川 衣紀・田部 絢子・石井 智也・能田 昂・内藤 千尋・池田 敦子・柴田 真緒・田中 裕己	4. 巻 102
2. 論文標題 スウェーデンにおけるインクルーシブ教育と知的障害特別学校の役割：ストックホルム市の二つの基礎特別学校の訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 研究紀要, 日本大学文理学部人文科学研究所	6. 最初と最後の頁 pp.183-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川 衣紀・田部 絢子・内藤 千尋・池田 敦子・石井 智也・柴田 真緒・能田 昂・田中 裕己・高橋 智	4. 巻 20
2. 論文標題 スウェーデンにおける障害者の学び直しと生涯学習・発達の保障：「ヴェスタンヴィーク聴覚障害国民大学(Vastanviks folkhögskola)」の訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 pp.1-10。
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 能田 昂・田部 絢子・石川 衣紀・内藤 千尋・池田 敦子・石井 智也・柴田 真緒・高橋 智	4. 巻 81
2. 論文標題 スウェーデンにおける障害者雇用・就労支援の動向：国営企業「サムハル（Samhall AB）」への訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 尚綱学院大学紀要 Bulletin of Shokei Gakuin University	6. 最初と最後の頁 pp.77-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・小川定明・池田敦子・高橋智	4. 巻 55
2. 論文標題 発達困難を有する非行少年の発達支援と地域移行支援に関する調査研究-少年院の在院者及び退院者調査を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 研究助成論文集	6. 最初と最後の頁 pp.113-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・池田敦子・石井智也・柴田真緒・能田昂・田中裕己・高橋智	4. 巻 13
2. 論文標題 スウェーデンの就学前学校におけるアレルギー対応支援 マルメ市の「アレルギー専用就学前学校のへの訪問調査から」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金沢大学人間社会研究域学校教育系紀要	6. 最初と最後の頁 pp.115-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・池田敦子・石井智也・柴田真緒・能田昂・田中裕己・高橋智	4. 巻 7
2. 論文標題 スウェーデンの特別教育における専門行政機関の役割「特別ニーズ教育庁」の訪問調査から」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 pp.85-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・池田敦子・柴田真緒・能田昂・田中裕己・高橋智	4. 巻 4
2. 論文標題 スウェーデンにおける発達当事者組織「Attention」への訪問調査を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本福祉大学スポーツ科学論集	6. 最初と最後の頁 pp.93-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田敦子	4. 巻 -
2. 論文標題 発達障害学生支援と青年期の支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 令和2年度岐阜県青年期発達障がい自立プログラム検討委員会報告書	6. 最初と最後の頁 44 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・石川衣紀・石井智也・池田敦子・柴田真緒・能田昂・田中裕己・高橋智	4. 巻 第4号
2. 論文標題 フィンランドにおける多様な発達困難を有する若者支援の動向「ユースセンター」の訪問調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松本大学教育総合研究	6. 最初と最後の頁 109-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・池田敦子・田部絢子	4. 巻 48
2. 論文標題 当事者のニーズから考える知的障害教育の機能・役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『障害者問題研究』	6. 最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・高橋智・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己	4. 巻 8
2. 論文標題 北欧と日本の児童虐待防止システムの実態と課題に関する比較調査研究 北欧の「子ども虐待対応センターBarnahus」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 未来教育研究所紀要	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・内藤千尋・田部絢子・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智	4. 巻 71
2. 論文標題 北欧における子どもの虐待と「子ども虐待防止支援センター (Barnahus)」の取り組み デンマーク・フィンランドへの訪問調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 177-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田敦子	4. 巻 -
2. 論文標題 卒業生生活実態調査から探る知的障害特別支援学校高等部の役割と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 助成事業報告要旨集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田敦子・内藤千尋・高橋智	4. 巻 第6759号
2. 論文標題 卒業生調査から探る知的障害特別支援学校の役割・機能と課題 (上)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田敦子・内藤千尋・高橋智	4. 巻 第6760号
2. 論文標題 卒業生調査から探る知的障害特別支援学校の役割・機能と課題（中）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田敦子・内藤千尋・高橋智	4. 巻 第6761号
2. 論文標題 卒業生調査から探る知的障害特別支援学校の役割・機能と課題（下）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田敦子・横山真理	4. 巻 4号
2. 論文標題 大学における障害学生支援体制の現状と課題－東海学院大学及び同大学短期大学部での取り組み－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海学院大学研究年報	6. 最初と最後の頁 99-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件（うち招待講演 8件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石川衣紀・池田敦子・能田昴・田部絢子・内藤千尋・石井智也・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 北欧のコロナ禍における障害・疾病等を有する子どもの「生活・学習・発達」の困難・リスクと発達支援の動向 肢体不自由・重度重複障害・疾病を中心に
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第 18 回子ども学会議要旨集p.66
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柴田真緒・石井智也・田部絢子・能田昴・内藤千尋・石川衣紀・池田敦子・高橋智
2. 発表標題 北欧のコロナ禍における障害・疾病等を有する子どもの「生活・学習・発達」の困難・リスクと発達支援の動向 知的障害・発達障害を中心に
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第 18 回子ども学会議要旨集p.65 東海学院大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田敦子・田部絢子・石井智也・内藤千尋・能田昴・石川衣紀・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 デンマークにおける肢体不自由（運動障害）教育システムの動向 インクルーシブ教育における肢体不自由（運動障害）特別学校・学級の意義と役割ー
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会、03-3 (p.76) つくば国際会議場
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田部絢子・石井智也・内藤千尋・能田昴・石川衣紀・池田敦子・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 特別支援学校の自立活動に関する動向と課題 「知的障害」領域を中心に
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会、03-3 (p.76) つくば国際会議場
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・石井智也・内藤千尋・能田昴・池田敦子・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 特別支援学校の自立活動に関する動向と課題 視覚障害・聴覚障害教育を中心に
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会、03-3 (p.75) つくば国際会議場
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石井智也・田部絢子・内藤千尋・能田昂・石川衣紀・池田敦子・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 特別支援学校の自立活動に関する動向と課題 「肢体不自由・病弱」領域を中心に
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会、03-3 (p.75) つくば国際会議場
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・石井智也・内藤千尋・能田昂・池田敦子・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける病気の子どもの教育ケアの動向
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会、03-3 (P.74) つくば国際会議場
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 能田昂・田部絢子・石井智也・内藤千尋・石川衣紀・池田敦子・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 デンマークにおける病気の子どもの教育ケアの動向
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会、03-3 (P.74) つくば国際会議場
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田部絢子・内藤千尋・石井智也・柴田真緒・石川衣紀・能田昂・池田敦子・高橋智
2. 発表標題 コロナ禍における障害・疾病等を有する子どもの発達リスクと発達支援に関する国内外の動向
3. 学会等名 『日本教育学会第81回大会発表要旨集録』、pp.356-357。
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田敦子
2. 発表標題 令和4年度理解・啓発セミナー事例紹介「東海学院大学における障害等のある学生の支援体制の構築の紹介」
3. 学会等名 独立行政法人日本学生支援機構（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田敦子
2. 発表標題 誰にでも優しい地区センターであるために－多様な子どもを理解と支援－
3. 学会等名 山内地区センター 人権研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田敦子
2. 発表標題 発達に困難を有する子どもの生活と発達を育てる支援 子どもから学ぶ取り組みを通して－
3. 学会等名 第5回岐阜県乳幼児教育・保育セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田敦子・高橋智
2. 発表標題 顕著な生きづらさ・発達困難を抱える若者における発達の自立の過程 当事者との振り返りの共同作業を通して
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第27回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田敦子・高橋智
2. 発表標題 米国の大学における知的障害学生対応の教育プログラムと修学支援の動向
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田敦子
2. 発表標題 発達障害や発達困難を有する 児童・生徒の理解と支援「不適応行動の背景を考える」
3. 学会等名 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜令和3年度共同プログラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田敦子・高橋智
2. 発表標題 知的障害者の大学・高等教育保障に関する日米の比較検討
3. 学会等名 日本発達神経学会9回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田敦子
2. 発表標題 大学における障害学生支援の取り組みの現状と課題 私立A大学の取り組みを通して
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD JAPAN）第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋智・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 北欧における子ども虐待の実態と虐待防止システム 北欧5カ国の「子ども虐待対応センター」等の訪問調査から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける子どもの摂食障害と当事者支援 当事者組織「FRISK&FRI」の訪問調査から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける障害者の学び直しと生涯学習の保障 「ヴェスタンヴィークス聴覚障害国民大学」の訪問調査から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・能田昂・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 デンマークにおける重度障害児の生活ケアと発達支援 「障害児センター・白鳥の家」の訪問調査から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 能田昂・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題)デンマークにおける知的障害・自閉症特別学校と発達支援 「Brøndagerskolen」と「GrydemoseskolenTeam V」の訪問調査から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける子どもの摂食障害と発達支 摂食障害センター・摂食障害当事者団体への訪問調査から
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける若者の「ひきこもり」問題と発達支援 若者支援プロジェクト「FINSAM」への訪問調査から
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 能田昂・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 デンマークにおける重度重複障害（知的障害・自閉症）を有する子どもの教育保障 特別学校の訪問調査から
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田敦子・内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 卒業生調査からさぐる知的障害特別支援学校卒業後の生涯発達支援の課題
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第25回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田敦子・内藤千尋・高橋聡
2. 発表標題 卒業生調査から探る知的障害特別支援学校高等部卒業後の生活実態と課題（第4報告）
3. 学会等名 『日本発達神経科学学会第7回学術集会要旨集』、p.30。
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田敦子・内藤千尋・高橋智
2. 発表標題 卒業生調査から探る知的障害特別支援学校高等部卒業後の生活実態と課題
3. 学会等名 『日本教育学会第77回大会発表要旨集録』、pp.255-256、宮城教育大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田敦子
2. 発表標題 高等学校における発達困難な生徒の実態とその支援
3. 学会等名 岐阜県立華陽フロンティア高等学校 人権研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田敦子
2. 発表標題 高等学校における特別支援教育の動向とその支援 ー大学における障害学生支援からー
3. 学会等名 岐阜県立岐山高校特別支援教育研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田敦子
2. 発表標題 義務教育終了後の自立に向けた昨今の現状と 流れについて進路の選択と受けることのできる 支援・就労について
3. 学会等名 関市親子教室研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田敦子・内藤千尋・高橋智
2. 発表標題 卒業生調査から探る知的障害特別支援学校高等部卒業後の生活実態
3. 学会等名 『日本特殊教育学会第56回大会発表論文集』、口頭発表（知的障害・発達障害）06-05。
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田敦子・内藤千尋・高橋智
2. 発表標題 卒業生調査から探る知的障害特別支援学校高等部卒業後の生活実態と課題（第3報告）
3. 学会等名 『日本特別ニーズ教育学会第24回研究大会発表要旨集』、pp.105-106。
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田敦子・横山真理
2. 発表標題 大学における障害学生支援体制の現状と課題 - 東海学院大学及び同大学短期大学部での取組 -
3. 学会等名 東海学院大学学生支援センター研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 智 (Takahashi Satoru) (50183059)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------